

大雨特別警報

大型台風

避難指示

豪雨に備える

爆弾低気圧

線状降水帯

10年間で水害に遭っていない市町村はわずか3.2%

近年、「記録的大雨」「観測史上最大の降水量」といった用語が飛び交うほど、日本は激しい気象にさらされ、毎年必ずどこかで水害が起きています。実際、政府が発表している資料によると、平成23年～令和2年の10年間で、一度も河川の氾濫などの水害が起きていないのは、全国1,741市区町村のうち、56市区町村しかありません。その割合はたったの3.2%※…。それほど身近な水害ですが、各家庭での備えは十分でしょうか。

「地震に関しては、みなさん知識も備えもかなり進んでいますが、水害についても防災意識を高めることが重要です」。防災士・岡本裕紀子さんはこう話します。

※参照：河川の氾濫や高潮など、水害からあなたの地域を守る、「水防」(政府広報オンライン)より
<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201507/1.html>



パルシステムが行った
 台風被害の支援
 (2019年10月23日～11月15日)

2019年10月12日、日本に上陸した台風19号は、東日本を中心に大きな被害をもたらしました。パルシステムでは被災地への緊急支援募金を募り、1億219万4,711円が寄せられました。また、被害を受けた地域へはパルシステム職員を派遣し、復興作業に参加しました。(写真は産直産地 サンファーム(長野県)での支援の様子)



大雨の被害は“減災”が可能



お話を聞いた方
 岡本裕紀子さん
 防災アドバイザー
 防災士

慶應義塾大学大学院にて関東大震災について研究するかたわら、都内の防災関連会社で勤務。大学院卒業後、防災クリエイティブマネジメントを開業。日本全国で様々な防災講演会を手掛けている。NHKなどメディア出演多数。主な著書は『岡本流 水害サバイバル』(Kindle版)など。

—自宅が川から離れていると、水害は関係ないと思ってしまうのですが…。

そう思うのも無理はありません。しかし、川から離れていても浸水してしまうケースはあるんです。2015年9月に茨城県で発生した豪雨災害では鬼怒川が決壊しました。決壊場所から約10kmも離れていた常総市役所が浸水して孤立したんです。この事例からも分かるように水害時には「地形」がポイントになります。すり鉢状の地形の場合、すり鉢の底にあたる場所では標高が高くても浸水してしまうおそれがあるので注意が必要です。

「まさか自分が被害に遭うとは思わなかった…」私が被災された方から何度も聞いた言葉です。まず何よりも、自分ごととして捉える必要があると感じます。

—水害への備えは、地震の防災とちがいはあるのでしょうか？

水害の場合は事前に情報がキャッチできること。天気予報を確認すれば予測も立てやすい。予測が難しい地震とちがって、水害に遭う前にできる“減災”の行動はかなりあります。台風や豪雨の発生そのものを抑制することはできませんが、被害を最小限にするために事前に取り組むべき行動、つまり避難について考えておくといよいでしょう。

10 **これが10cmの目安です**

水深10cmはどれくらい危険？

—どんな状況になったら避難をするべきなのでしょう？

とにかく「早めの避難」が基本です。

夜間に災害が発生しそうな場合には明るうちに避難を済ませておきましょう。

水害の時に町を覆う水は泥水です。

水深が約10cmになると、側溝・用水路と道路の境目も見えなくなり、足元の安全を確認できなくなります。また、水の力でマンホールのふたが外れている場合もあるので、浸水が始まってからの避難にはリスクが伴います。10cmの浸水は浅いというイメージですが実は「**限りなく赤信号に近い黄信号**」なのです。



“マイ・タイムライン”を作ってみよう

—避難情報などを聞いて、行動に移すにはどうしたらよいでしょう？

危険な状況に直面してから避難の詳細を考えるようでは、手遅れになってしまうこともあります。「レベル3（高齢者等避難）の情報が出たら避難を開始する」のように、**状況と行動の指針をあらかじめ作っておく**とよいでしょう。今、国や自治体ですすめているのがマイ・タイムラインです。ハザードマップを参照しながら、自宅のある場所・状況を書き込み、各家庭にあった指針が作れます。スマートフォンアプリやLINEなどで提供している自治体も増えてきました。

もちろん、マイ・タイムラインに書いたことが「絶対に安全」とはいえないので、状況を見極めることも必要です。場合に よりますが、**躊躇しているくらいなら避難した方がいいということもあります**。「空振りを恐れない」ことも大切です。



国土交通省で公開している「マイ・タイムライン」から参照：<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/>

どう備える？家・車

戸建ての備え

窓を守る

窓が割れると強風が室内に吹き込み、屋根が飛んでしまうこともあります。雨戸を閉め窓を守ることが重要です。雨戸がない窓は木の板や段ボールを取りつけて備えましょう。

垂直避難の準備

1階が浸水し、避難所にも行けなかった場合、2階以上で過ごすことに。水・非常食・薬・災害用トイレなどを分散保管しておくのがおすすめ。

マンションの備え

ライフライン停止に備える

停電するとエレベーターが使えず、高層階で孤立することも。非常用電源やカセットガスコンロなどを持っておくと安心。

コミュニティづくり

被災生活においては住民相互の助け合いが大切です。そのためにはマンションの会合や催しものに参加するなど、日ごろから顔の見える関係づくりに取り組みましょう。

車と大雨

冠水中の車での避難は危険

水深10cmでもブレーキが利きにくくなり、水深30cmではエンジンがストップすることも。浸水する前に車は高い場所に移動させておき、避難するなら徒歩で。

乗り捨てる場合

やむを得ず車を路上に置いて離れる場合は、なるべく路肩に寄せ、キーをつけたままに。水が引いたときに誰でも動かせる状態にしておきます。

コラム

ペットと防災

ペット保険を取り扱っているアニコムでは、防災への取り組みにも注力しています。各家庭での備えについて尋ねました。

ペット保険の契約者でも災害の備えは不十分ということもあります

アニコム損害保険株式会社 広報担当 兵藤未来さん

ペットを受け入れている避難所を調べよう

防災で思い浮かべるのは、まず人と同じように食品、飲み水、ペットシートなどの生活必需品など。ほかにペットならではの準備も必要だと兵藤さん。「環境省のガイドラインでは、ペットは同行避難が原則とされています。ただし、そこで問題になるのは避難所の体制。自宅の最寄りの避難所がペットを受け入れているとは限りません。まずは自治体の情報などからペットといっしょに避難できる場所を把握しましょう」



避難所でのトラブルを避けるために

避難所でペットと過ごせることになったとしても、そこにはペットを飼っていない人も多くいます。なかにはペットに対して好意的でない人も…。「どうしてもニオイはありますし、犬アレルギー・猫アレルギーを持っている人もいます。避難所の動線をわける工夫や、日ごろからケージやほかのペットたちと慣れさせておくことなどが大切です。非常時には人なら周りの助けを借りることができますが、ペットを守るのには飼い主しかいません。日ごろから備えていただければと思います」



アニコムではサイト上でオリジナル防災手帳を公開しています。わが子のプロフィールや健康状態を記すことができ、預け先や迷子になった時に役立ちます。犬・猫をはじめ、鳥、うさぎ、フェレット、カメ、トカゲなどその数なんと全15種類も！

詳細やダウンロードはこちらから <https://www.anicom-sompo.co.jp/bousai/minna/359/>





Information



2024年
10月

火災保険が改定

***過去最大の保険料値上げが行われます。**

火 災保険の参考純率が全国平均で13%引き上げられます。洪水や土砂災害などに対応する水災料率はこれまで全国一律でしたが、今回から市区町村単位の5区分に細分化されます。したがって、火災保険料率はお住まいの地域により最大1.2倍の差が生まれます。



詳しくはこちらを
ご覧ください!

*直近10年間における損害保険料率算出機構より発信された火災保険参考純率(住宅総合保険)の全国平均の引上げ率が過去最大となります。なお、実際の契約にあたっての火災保険の保険料改定率とは異なります。

出典: 損害保険料率算出機構火災保険参考純率のご案内

パルシステム共済連ホームページにて
**「ありがとうのバトン」
Web版が2024年下期より
スタートします!**

ささえあい基金
助成団体紹介

これまで誌面で紹介してきた団体を随時更新していきま。また、お寄せいただいた団体へのメッセージも紹介いたします。



ありがとうの バトン

パルシステム共済連「ささえあい基金」助成金をうけた団体から届いた、自分たちの活動や助成金への思いを紹介し。紹介団体への応援メッセージ受付中! Webでのアンケートやページ下の感想記入用紙を使ってお寄せください。

NPO法人Annakaひだまりマルシェ(群馬)

私 たちは群馬県安中市を拠点に活動しています。法人設立のきっかけは東日本大震災で、子どもたちの健康を見守っていく甲状腺検査事業を、パルシステム群馬様をはじめ、たくさんの方のご協力をいただきながら実施しています。また、地域の子育て応援団を増やす子育て支援として、ファミリーサポートセンター(お子さんの一時預かりや送迎)やホームスタート(家庭訪問型子育て支援)を軸に、困難を抱える女性への相談支援事業(電話相談やLINE相談、アウトリーチ)なども始めました。

今 回の助成で「出張みんなのカフェ」を開催し、困りごとを抱える方々にアウトリーチ(訪問支援)をするきっかけを作っています。物価高が進む中で、困難を抱える方々はますます増えていくでしょう。この事業を通して、何か困ったことに直面したときに、「ひだまりマルシェで相談してみようかな」と思ってもらえるような関係性を作ることができれば、と思います。改めまして、助成いただきありがとうございます。



食料品を配りながら、日ごろの悩みを相談できる場を作っています



配付する食料品は離乳食も用意

●ささえあい基金(共済事業での地域づくり支援制度)

生活困窮者や社会的孤立者への支援活動等を行う市民団体やNPOへの助成金制度です。2024年度は20団体に計1,000万円の助成を決定しました。
※助成金は組合員からお預かりしたCO・OP共済《たすけあい》の掛金から生まれた剰余金の一部を活用し、組合員理事・有識者を交えた審査会を経て理事会で承認され使用します。

